

(様式7)

公共事業継続箇所評価調査

評価確定日(平成25年09月30日)

事業コード	H25-建-継-09		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	1次改築(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2492
路線名等	一般国道107号		担当課長名	柴田 公博
箇所名	横手市大沢		担当者名	齋藤 篤
総合計画との関連	政策コード	10	政 策 名	交通基盤の整備
	施策コード	02	施 策 名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
	指標コード	01	施策目標(指標)名	県管理国道の整備推進

1. 事業の概要

事業期間	H21 ~ H29 (9年)		総事業費	17.8億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	延長L=1,700m 幅員W=6.5(12.0)m (1.5+3.25+3.25+1.5+2.5)						
事業の立案に至る背景	<p>国道107号は岩手県大船渡市を起点として本県由利本荘市に至る幹線道路で、県内陸部と沿岸部を結ぶ物流ルートとして、地域間交流・連携を支える交通ネットワークを形成する重要な路線である。</p> <p>当工区は、国道107号唯一の未改良区間(車道5.5m未満)であり、大型車の交差が困難な幅員狭小区間である。そのため、区間死傷事故率84件/億台kmと事故が多発していることから、円滑な交通の確保及び安全安心な生活空間の確保を図るため、事業を実施するものである。</p>						
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・大型車のすれ違い困難となっている幅員狭小区間の解消(W=5.0(6.0)m)。 ・線形不良区間の解消(Rmin=110m、imax=5.7%)。 ・死傷事故率(84件/億台km)が高くなっており、早急な対応が必要。 ・地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備。 						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	2,100,000	1,777,000	-323,000			
	経費 内訳	工事費	1,206,000	1,159,000	-47,000		
		用補費	763,000	489,000	-274,000	設計の見直しによる補償物件数の減	
		その他	131,000	129,000	-2,000		
	財源 内訳	国庫補助	1,155,000	1,243,900	88,900		
		県 債	425,000	480,000	55,000		
その他		0	0	0			
一般財源	520,000	53,100	-466,900				
事業内容					国の制度改正により補助率が変更となった。		
事業の進捗状況	用地交渉が難航しており、事業完了年度を1年延伸(完了年度をH28からH29に延伸)。						
事業推進上の課題	用地買収の進捗を図る。						
関連する計画等	・ふるさと秋田元気創造プラン「地域医療などを支える救急ネットワークの整備」						
情勢の変化及び長期継続の理由	特になし						
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	県管理国道改良率					
	指 標 式	改良済延長/路線実延長					
	指 標 の 種 類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無			
	目 標 値 a	93 %	データ等の出典	道路課調べ			
	実 績 値 b	93 %					
達成率 b/a	100.0 %	把握の時期	平成25年4月				

前回評価結果等	○ 選定または継続 ● 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項 歩道の設置に関し、現道の活用または側道の利用などを検討すべきである。
	②指摘事項への対応 バイパスに隣接した住民、及び市中心部へ向かう通学児童等の安全確保の観点から、また当事業区間の前後には歩道があり、歩行者空間ネットワークの連続性の観点からも歩道は必要と判断した。

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	<ul style="list-style-type: none"> ・国道107号唯一の未改良区間(車道5.5m未満)であり、大型車の交差が困難な区間がある。特に、冬期間は堆雪によりさらに深刻な状況となっている。 ・現道は事故率も84件/億台kmと高く、出羽グリーンロードとの交差点の改良も含めて対策が急がれている。 	14点
緊 急 性	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は、地域間交流・連携を支える交通ネットワークを形成する重要な路線である。 ・東北自動車道と日本海沿岸東北自動車道を結ぶ物流ルートとして、今後も交通量の増加が見込まれる。 	15点
有 効 性	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次緊急輸送道路であり、災害や救急医療施設のアクセス道路として活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。 	28点
効 率 性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の費用便益は1.6である。 総費用の現在価値 17億円 総便益の現在価値 28億円 ・計画交通量は3,800台/日となっている。 ・設計の見直しにより補償物件等を減らし、コスト縮減を図った。 	17点
熟 度	<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗率は6%である(用地進捗率2%)。 	4点
判 定	ランク (○ I ● II ○ III) 「有効性」、「効率性」が特に高い点数となっており、住民の安全・安心の向上や将来的な効果の面でも有用な事業箇所であり、実施すべきと考える。	78点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
 適用基準名 道路改築事業 (地域間交流・連携促進)

事業コード (H25-建-継-09)
 箇所名 (横手市大沢)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題	<ul style="list-style-type: none"> 車道幅員<5.5m 最小半径<100m 最急勾配>5% 冬期堆雪巾なし 	3箇所以上	8	8	
			2箇所	5		
			1箇所	3		
			0箇所	0		
			0箇所	0		
		道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7		
			4件該当	6		
			3件該当	5		
			2件該当	4		
			1件該当	2		
	計	該当項目なし	0	15	14	
	緊急性	道路をとりまく環境等	関連事業の有無 <ul style="list-style-type: none"> 県の主要プロジェクト 地域振興プロジェクト ほ場整備等の他事業 	あり	5	5
				なし	0	
				市町村合併支援道路	位置づけあり	
位置づけなし		0				
特有の課題の有無		老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	あり	5	5	
			なし	0		
計			15	15		
有効性		道路の位置づけ	緊急輸送路	第1次輸送路	10	8
				第2次輸送路	8	
				第3次輸送路	6	
	指定なし			0		
	県内90分交通体系、全国1日交通圏等に	あり	10	10		
		なし	0			
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い	10	10		
		低下傾向	6			
		必要性が低い	3			
	計		30	28		
効率性	事業の投資効果等	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	
			1.0未満	0		
	計画交通量	5,000台/日以上	5	3		
		1,000台/日以上~5,000台/未満	3			
		1,000台/日未満	0			
	コスト縮減	あり	5	5		
		なし	0			
	事業中止による影響	既投資額の損失大	5	4		
		既投資額の部分的損失	4			
		既投資額の損失が少ない	3			
計		20	17			
熟度	事業の進捗状況	事業の進捗 (事業費)	8割以上完了	10	2	
			5割以上完了	8		
	1割以上完了		5			
	1割未満		2			
	未着手		0			
	用地買収の進捗 (面積)	8割以上完了	10	2		
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
		未着手	0			
計		20	4			
合計				100	78	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	II	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		